

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立島根中学校)

編集：情報部

VOL.58 2016.12.12 (時雨号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 子どもたちの未来に向かって！
私たちにできること (副会長)
- ▶ 研究部・研究委員会の取組
- ▶ 県大会参加者の感想
- ▶ 島事研組織・事業の見直しについて
- ▶ 研修報告 (全事研大会)
- ▶ 隠岐の島町 学校事務グループの取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



子どもたちの未来に向かって！ 私たちにできること

副会長 勝部 千恵

今年度より副会長となりました，松江市立第一中学校の勝部です。どうぞよろしくお願ひいたします。
第47回島根県公立小中学校事務研究大会を，関係諸機関のご支援・ご協力により11月11日に出雲市のビッグハート出雲で開催いたしました。来賓の方を含め246名のご参加をいただき，盛大な研究大会となり，島事研の柱となる事業を無事終えることができました。開催にあたり準備・運営をしていただきました準備委員会並びに出雲管内の皆様，研究発表をしていただきました出雲地区：雲南市小中学校事務職員会・浜田地区：浜田市教育研究会事務部会の皆様，そして関係するすべての皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今年度の研究大会には，文部科学省より参事官補佐の廣田 貢様，雲南市教育委員会より教育長の土江博昭様のお二人をお招きし，講演・対談をしていただきました。廣田様には「チーム学校を実現するための事務職員の役割」と題してご講演をいただきました。市町村・経験年数・職種を超えて参加された皆様にわかりやすく且つ，今後の自分の働き方の後押しとなる内容だったと感じています。また，土江様には「MVPを大切に = 学校・家庭・地域（企業・NPO等）・行政の連携・協働による教育の充実 =」と題してご講演をいただきました。情熱（パッション）あふれる語りで，私たちの新たな可能性なども考えながら聞くことができました。講演・対談をとおして『子どもたちの未来のために今私たちにできることは何か』を，改めて考える機会となりました。対談の最後には，土江様から3つの「C」（チャンス・チャレンジ・チェンジ），廣田様からは3つの「work」（フットワーク・ネットワーク・ハートワーク）という私たちへのエールとなるキーワードをいただきました。そして，最後に参加者の意志を集めた「志」の木，ここから新しい一歩が始まったと感じています。

1月27日にはパルメイト出雲において，第13回島根県学校事務セミナーを開催いたします。文科省より学校運営支援担当参事官の木村直人様をお招きし，研究大会からまた一歩踏み出した内容を企画しています。島事研会員をはじめ，多方面の皆様にご参加いただきますようよろしくお願ひいたします。

研究部 研究委員会の取組

『置かれた場所』で咲くために

研究部 部長 岡田 由美

2学期に入り、モニター地区を引き受けてくださった出雲市・浜田市の皆さんに『逆転発想マネジメントシート』と『あっとん@タグ』をお配りしました。活用の方法・流れは次のようにしています。

- ① 第五次研究中期計画> 研究の方法> “教育活動へのより深い関わり”をとおした目標設定で掲げている領域「学習環境整備」「地域連携」から、取り組んでいること・取り組もうとしていることを『逆転発想マネジメントシート』に書き入れる。
- ② 日常の“気づき”や“ひらめき”, “行い”, “つながり”等を『あっとん@タグ』に書き留めていく。
- ③ 『あっとん@タグ』でメモしたことを『逆転発想マネジメントシート』に生かしながら、取組・実践を改善し、テーマに沿ったものにまとめていく。

この活用方法を原則とし、共通の活用の目的と地域ごとの活用の目的を設け、取組をスタートさせていきます。研究部では、今後次のことの実施・提案を考えていきます。

- 第1回モニター地区意識調査の実施
- 上記③の「タグ→シートへの生かし方」や「シートのまとめ方」の提案
- 取組のシェア・振り返りの場（事務グループ活動等を活用して）の提案



さて、第47回島事研大会が11月11日に開催され、出雲地区・浜田地区で研究発表を担当していただきました。

雲南市・浜田市の皆さん、ありがとうございました。

元気&やる気スイッチを押された人もいれば、すぐに業務に生かせるヒントを得ることができた人もいたのではないのでしょうか？

私ごとになりますが、以前勤務していた雲南市のアクティブな発表を見せていただき、刺激を受けると同時に、今、あまり活性化していない自分の動きに少しだけ残念な気持ちになっていました。以前の学校ではできていたことが、今の学校でできない自分。そんな話をすると、文部科学省より講師としておいでになった廣田さんから、渡辺和子さん著書の『置かれた場所で咲きなさい』を例えに、「以前、活躍した自分は少し忘れて、今この場所で何を求められているのか？自分は何をすべきなのか？それを考えることが第一ですよ。」とあたたかい叱咤激励の言葉をいただきました。

今いるこの場所で課題解決していくために、自分の強み（得意分野）や経験ありきではなく、まずは実態・実情・必要性ありきということ。そんなお話を聞いているうちに、自分が過去の経験や実践にこだわり過ぎていたせいで、今この場所でやるべきこと・求められていること、一番大切なことを見失いかけていたのかもしれないと思うことができました。

『置かれた場所』は様々です。それぞれが取組の花を咲かせていくために、まずは自分が今『置かれた場所』で何が必要で、何が自分に求められているのか、しっかりと実態を把握し取り組んでいくことが大切です。そのため手段のひとつとしても、今、研究部から提案している『逆転発想マネジメントシート』『あっとん@タグ』を有効に活用できるようなツールとして皆さんに提案していけたらと感じたところです。

『逆転発想マネジメントシート』『あっとん@タグ』については、セミナー終了後、島事研HPにアップする予定だっとな♪ 会員の皆さんにも積極的な活用をしてもらいたいのでよろしくとん！

日付	/ ()					
メモ						
実践・取組 視点 気づき リスト	目標・目的 思い・願い 情報	結果 疑問？ アイデア！	成果 悩み 企画 つながり() 評価()	課題 つまずき 調整	感想 本音☆	
	→	()	()	→	()	()
	→	()	()		()	()
その他()						



by島事研研究部

学びの質の向上につながる学校事務@子ども。未来。しまね

「逆転発想マネジメントシート」記入のポイント

- 「マネジメントシート」が取組の軸になります。
- 「あっとん@タグ」から転記するタイミング、ポイント等は、追って研究部から提案します。

「あっとん@タグ」記録のポイント

- 日常の“気づき”を書き留めていってください。
 - ・「気づきリスト」の分類は後回しになってもよいです！
 - ・毎日の“気づき”が埋もれてしまってはもったいない、文字に残しておきましょう。
- 時々「メモ」を振り返ってみましょう。
 - ・不足している視点、要素がありませんか？
 - ・もしあれば、そこを補う視点で物事を見たり、行動を起こしてみましょう。
- 自分は何のためにやっているのか？
 - ・目標、目的を再確認しながら前に進みましょう。
 - ・目標、目的がはっきりと決まらずにスタートした場合は、目標、目的を少しずつ明確にしていく作業を取り入れましょう。
 - ・最初は見えにくかった具体的な目標が、意識してメモをとり続けることで、だんだん見えてくるはずですよ。



逆転発想マネジメントシート
 ・後付けまたは同時進行 ・計画どおれしないマネジメントシート

◎取組

※相違点 繰り返してもよい

●内容（学校事務の関与）

●成果

●課題

★発展・改善ポイント

●内容（学校事務の関与）

●成果

●課題

★研究テーマに沿った実践
 学びの質の向上につながる学校事務の関与～教育活動へのより深い関わりをとおして～
 何となく始めた取組にテーマや動機等を後付けしていきながら、研究テーマに沿った取組として徐々に整え、繋いでいく。テーマや目的に基づいたゴールイメージを見据え取組を進める…という通常の順序に比べ取組の順序やコツを知ることにつながる。取組を整える・繋げる過程で、様々な気づきを得る。→あっとん@タグとのリンク

学びの質の向上につながる学校事務@子ども。未来。しまね
 【逆転発想マネジメントシート】by島事研研究部2016ver.

【平成31年度全事研岡山大会研究発表キャッチコピー&イメージキャラクター】

島事研研究部では「@」をキーワードに、イメージを広げ、キャッチコピーやキャラクターを設定しました。

■ キャラクター

あっとん@



“あっとん@”はこれから島事研研究部のあらゆる取組に登場します。研究部の一員としてよろしくお願ひします。（かわいらしい「あっとん語」をしゃべりますが、あたたかく見守ってください。）

■ キャッチコピー

学びの質の向上につながる学校事務@子ども。未来。しまね

全国大会研究発表の基盤となる第五次研究中期計画のテーマと島事研のミッションを、メールアドレスの構成を真似て「@」で結びつけました。

「@」=「at」の意味で読み替えていただくと、『しまねの未来を生きる子どもたちに、“学びの質の向上につながる学校事務”を展開・提供していきましょう！』というメッセージになります。

島事研研究部では「@」をキーワードに、イメージを広げ、キャッチコピーやキャラクターを設定しました。

「@」 ① 「at」 → ((目的・目標))…を 目がけて、に向かってという意味をもつ

② 「あっと」→ あっ！という 気づき、ひらめきを大切にしたい

* キャラクター・ロゴの制作は、研究部員/宍道小/佐伯主任主事です。

11月
11日

第47回 島根県公立小中学校校務研究大会

[会場：ビッグハート出雲]

○ 講演

演題「MVPを大切に

＝学校・家庭・地域（企業・NPO等）・行政の連携・協働による教育の充実＝

文部科学省初等中等教育局 参事官補佐

（併）校務改善専門官

廣田 貢 様

雲南市教育委員会 教育長

土江 博 昭 様



○ 研究発表

《出雲地区》

「子どもと一緒に進める安全・快適な学びの環境づくり」

東部地区 ～学校間をつなぐ学びの環境づくり

中部地区 ～子どもの力を取り入れた学びの環境づくり

西部地区 ～地域・保護者をつなぐ学びの環境づくり

《浜田地区》

「チームはもたで教育力向上」

～教育環境整備の基盤づくりをめざす共同実施～



参加者の感想



◎ たくさんの取組を聞かせてもらって、自校に帰って、できそうなことから頑張れたらと思います。（子どもたちの目線で、他の教職員との協働などなど・・・）日々の業務で、いっぱいいっぱいですが、元気が出ました。浜田の発表のHAMAポなどは、実際に使用しておられるものを見てみたいと思いました。

◎ 廣田さんのお話は、これからの事務職員の役割がよく分かる内容でした。自分の殻を破って、何かアクションを起こすというのはとても勇気があることですが、小さなことから、自分の強みを生かしてという言葉に何かできそうな気がしてきました。土江さんの画期的な取組に、情熱を感じました。いろいろな人材を活用して、子どもたちを育てていることにあらゆる面でのつながりが大切なんだと思いました。

◎ 今、私たちに何が必要か、これからどういう方向に向かっていったらいいか考えることができた分科会発表、講演でした。ありがとうございました。

◎ 浜田市の発表では、共同実施の組織がしっかりしているという印象を受けました。浜田市独自のHAMAポは良いものだと思います。校長・教頭・教務主任等を巻き込んで、教育力向上に繋がっている事は素晴らしいことだと思います。

◎ 児童生徒と一緒に環境整備を行っているところにすごく感銘を受けました。地域・教育委員会などと連携をとることの重要性を改めて感じました。

◎ 雲南市の取組は、市内すべての学校で、事務職員それぞれが何かしらの形で主体的に安全点検等に関わっている点で素晴らしいと思います。それが、予算要求に繋がりが、また結果を保護者や子どもたちに返し、きちんと見える形にされていて、まさに学びの環境を整え、学びの質の向上につながっていると思いました。

◎ 改革に向かっている社会、学校現場で事務職員の存在価値が問われていると意識し、自分でやることを考え、実践しなさいという思いが届きました。

島事研組織・事業の見直しについて

島事研 役員会

会員の皆様には、本研究会の目的達成のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、研究大会の総会で報告をしましたが、平成16年度より、学校事務職員数の減少とともに本研究会の会員も減少しております。それに伴い、毎年収入予算が減少し、島事研の運営的な面を考え、役員会としては毎年のように会費の値上げ等について検討をしていました。そうした中、長年、本研究会に助成金をいただいていた団体から、今年度(平成28年度)をもって助成金を終了すると申出がありました。平成29年度からは大幅な収入予算の減少となり、島事研事業の運営が困難になると予想されます。そのため、財政面だけではなく、島事研全体に関する意識調査として、8月に島事研アンケートを実施いたしました。短期間ではありましたが、会員309名中・219名(約71%)の方に回答をいただきました。回答結果を参考にし、役員会で今後の島事研活動がよきものになるよう事業・組織・予算等、全般的に検討を行い、研究大会後の理事会で代議員会の議案について協議をしました。議案については次の通りです。

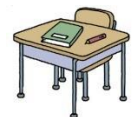
議案1) セミナーを隔年開催とし、参加費を徴収する。

※ 参加費については、運営費(会場費等)に充てるものとする。



議案2) 代議員数の見直しを図る。

※ 現行の38名から22名とする。



詳細については、各市郡理事を通じ、後日皆様にお知らせをいたします。代議員の方は当市郡の意見を集約し、第2回代議員会(1月27日)で議案審議をしていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

研修報告

第48回 全国公立小中学校事務研究大会・山形大会 に参加して

飯南町立赤来中学校 小林 美幸

第48回全国公立小中学校事務研究大会・山形大会が8月3日から8月5日の日程で開催され、県の花・紅花が生けられたステージ上に山伏が吹く神秘的な法螺貝の音色が響き、全国大会ならではの華やかな雰囲気の中始まりました。

開会式に続く文部科学省行政説明では「今、学校事務職員に求められること」～教育改革の方向性を踏まえ～と題して、学習指導要領の改訂、新教育課程への動きなど教育の現状についての説明や教育の情報化についての提案がありました。また、全体研究会では全事研活動報告として全国大会日程見直しの説明があり、パネルディスカッションにおいては、教育行政職員としての視点で情報の共有に努めてほしいと意見がありました。

2日目は全事研本部を含む8つの分科会発表がおこなわれ、福島支部「地域とともにある学校づくり」に参加しました。東日本大震災からの復興の歩みとして、自身も避難者でありながら、子ども・保護者に寄り添い学校再開に向けた課題に学校事務職員だからできること、学校事務職員でもできることを意識し取り組まれた現在までの様子を発表されました。震災により中断された統合・閉校事務の取組内容や「共同・連携実施」の導入経緯の説明や、複数の自治体にまたがり構成される事務グループの課題など福島県の状況や島根県との違い等を伺うことができ、危機管理に対する意識や地域とのつながり等とても参考になりました。助言者からは、ガバナンスを「共治」と定義し、学校ガバナンス＝地域・他校・管理職、みんなで学校を良くしようとする姿勢であること。また、学校内での事務職員の役割については職務内容を明確にし、つなぎ役として力を発揮してほしいとありました。

最終日の大会報告や記念講演、そして来年度京都大会への引継式までもとても良い内容でした。その場に居てこそ伝わる言葉、感じることができる雰囲気があります。日々の仕事に対して、いかに意識をもって取り組むか考えさせられた有意義な大会参加となりました。

学校事務グループの取組

隠岐の島町

私たちの町、隠岐の島町には4つの中学校と7つの小学校があります。そのうち1校に事務グループ加配をうけており、学校事務職員は合計で12名になります。通常、私たちが活動を行う上での組織は2つあり、隠岐郡小中学校教育研究会に属する学校事務部会（島後部会）と、隠岐の島町学校事務グループ推進協議会に属する2つの事務グループがあります。

この2つの組織についての取組状況を紹介します。

隠岐郡小中学校教育研究会学校事務部会 〔島後部会〕の取組

- 給食費集金事務の移行
 - ・教育委員会、給食センターと連携し、各学校で行っていた給食費集金事務を給食センターへ移行した。平成27年度に学校事務部会が中心で準備を行い、平成28年度から始まっている。
- 文書管理事務の統一
 - ・平成24年度の県大会で発表した文書管理について、継続して研究を行っており、平成27年度からは町内統一の文書管理体制が実現した。まだ、法的な整備が十分ではないが、今後継続して研究を進める予定。
- 研修会
 - ・教育委員会との実務研修会（学籍関係・就学援助事務・学校予算 等）
 - ・教育事務所との実務研修会（旅費事務・給与事務）
 - ・ジオパーク野外講座（隠岐の島町を知ろう！）
 - ・出前講座（「職員室から始める人間関係づくり」「学校における情報セキュリティ」）
 - ・海士町長講演会 等

隠岐の島町学校事務グループ推進協議会 について



- 発 足
 - 平成22年度
- 目 的
 - 隠岐の島町立小学校及び中学校における特色ある学校づくりの推進や、教育の質を高める基盤となる事務・業務の効率化・適正化及び職員の資質向上等を目指した事務グループの運営
- 各グループについて
 - 西郷・都万・五箇中事務グループ
 - 西郷中学校・西郷小学校・五箇中学校・五箇小学校・都万中学校・都万小学校
 - 西郷南中学校区事務グループ
 - 西郷南中学校・中条小学校・有木小学校・磯小学校・北小学校
- 【活動内容】
 - ・経験年数の少ない事務職員のための実務研修、相互支援、情報交換
 - ・新給与システム・旅費事務等の情報伝達
 - ・旅費の手引きの作成 等



教育委員会の声

「学校事務職員への思い」



隠岐の島町教育委員会
教育長 山本 和博

学校は教育を司るところです。児童生徒が主人公であり、教員が中心の職場です。過去、学校事務職員は、学校の便利屋のような存在に思われていた頃もありました。現在は、言うまでもなく、学校経営をするにあたって事務職員は、車のエンジンのような存在で、教育環境の整備という重要な職務を担っています。私自身も管理職になって、初めてその存在の重要性に気づかされました。私の教頭時代。新任の事務職員と何もわからない二人で悪戦苦闘し、どうにか期限までに年度初めの手続きや、届出等を間に合わせたり、給料日には宿直室にこもり給与明細を並べ、聖徳太子を一枚一枚勘定し、なんとか教職員に支給できたこともあります。さらに校長時代。事務職員の配置のない小学校に勤務し、諸事務を教頭や養護教諭と分担しました。旅費担当の私は、他校の事務職員の方に教えて貰いながらも計算が合わず何度も教育事務所に通い、やけくそになったことも思い出されます。そんな経験をした私だから、事務職員のみなさんへの思いもあります。事務職員は、学校経営において非常に大きな役割を担うものです。しかし、ほとんど学校に一人だけの配属であり、研修等の機会も教員に比べ恵まれていません。

現在、隠岐の島町には、学校事務グループ推進協議会が設置され、二つのグループに分かれて研究活動をしています。毎月会合を開き情報の共有、相互支援、等々を行い学校事務の充実強化を図っています。事務職員の皆さんの資質向上に大いに役立っていますが、近年世代交代の時期を迎え、初任の事務職員が数名配置された我が町の学校にとっては、事務グループの存在は大きなものです。グループの研修内容が益々深まるよう心から期待しています。

管理職の声

「島の強みを活かして」

島後小中学校長会
会長 谷口 彰（北小学校長）

学校事務職員は、学校で唯一の行政職員です。時には、私たち管理職が知らない根拠となる法令や文書を、即座に示して下さることがあります。その専門性の高さは、学校において不可欠なものです。

また、事務グループ活動の成果は、事務処理の適正化や効率化を図ることに始まり、教員の事務処理への負担軽減や事務処理能力の強化や資質向上などの事務職員育成に至るまで、時代の要請と共に幅広く求められるようになりました。

この間、隠岐の島町の小中学校では、文書管理体制の町内統一など着実な成果をあげてきました。その背景には、島という地理的条件と各学校の行政職であるという職場環境による事務職員同士の強い連帯感があつたと思います。

今後は「隠岐の島町学校事務グループ推進協議会」を中心に、教育委員会と校長会と事務グループの三者が連携を強化することで、事務グループ活動の更なる充実につながることを願っています。





私の目指す 学校事務職員

吉賀町立六日市小学校
岩谷 勇良

採用当時に「学校事務ってどんな仕事をするの?」と聞かれて、はっきりとした回答に困ることがよくありました。同じ仕事をしている方なら同感していただけるのではないのでしょうか。私の学校事務に対する採用前のイメージは、デスクワークが中心の「事務員さん」のような姿を想像していました。実際に仕事に就いてみると、イメージとは違って様々な仕事や役割があり、自分が子どもだった頃には「学校事務」という仕事の一面しか見ていなかったのだなと思いました。

2年目を迎え、改めて「学校事務職員」という仕事について私なりに答えるとしたら、「学校に関わる『ひと』『もの』『お金』に関わり、学校運営を支える仕事」といえるのではないかと思います。この中でも特に「ひと」との関わりが一番大切だと思います。学校事務職員は教職員や子どもたちだけでなく、学校の窓口として様々な人に関わることが多いため、あらゆる人とのコミュニケーションをとるスキルが必要になると思います。それと同時に「仕事のできる」事務職員との差が生まれるところでもあると思っています。

私の目指す事務職員は「信頼される事務職員」になることです。そのためには、コミュニケーションをとることが大切だと思います。当たり前前のことで社会人になれば誰でも気づくことですが、どこをどうしたらよいか難しいのが現実だと思います。私もそう思っているうちの1人です。あれこれと悩んでいましたが、原点に立ち返って「あいさつ」「報連相」を徹底するなど「当たり前前のことを当たり前にする」ことが一番だと思っています。まだまだ未熟な部分も多いですが、自分にできることからひとつずつ、日々積み重ねるよう努力していきたいと思っています。

Vol.35 ふーちゃん Nice to meet you!!



原作:千葉ひろみ 画:大橋幸子

【編集後記】本校では子どもたちにアンケートをとって、教室や特別教室で直して欲しいところはないかを聞いています。子どもたちが書いてくれた要望にはできるだけ応えられるように心がけています。以前のことで、6年生の児童が、「体育館の床板が沈む所があります。」と教員に来てくれました。6年担任が、「壊れているところを言えばちゃんと直してもらえると子どもたちが思っているからだよ。」と言ってくれてとてもうれしかったです。こんなささいなことが仕事をする喜びです。(T・M)

